

## 分子鑄型ポリマー固相カートリッジ

# AFFINIMIP™ Phenolics 操作方法 v1.4

### 1. AFFINIMIP の原理

AFFINIMIP はターゲット分子鑄型の形状や機能的配位を認識する三次元網を構成するポリマー化の過程で得られる固相で、その選択性は分子鑄型ポリマー (MIP=Molecular Imprinted Polymer) といわれる化学合成技術によるものです。

AFFINIMIP Phenolics はフェノール化合物を選択的に抽出するために開発されました。AFFINIMIP を利用することで、トレースレベルでの試料においても、クリーンアップおよび前濃縮が期待できます。

### 2. 製品情報

固相抽出カートリッジ。100mg 含有。3mL 容量シリンジ。

室温保存

### 3. 注意

C18 カラム等が開発された方法や溶媒などを AFFINIMIP に適用することは適切ではありません。

### 4. AFFINIMIP 固相精製の一般的な方法

#### 4.1 一般的な理化学機器以外に必要なもの

カートリッジ用の固相抽出マニホールドおよび窒素エバポレーターないし真空吸引装置

アセトニトリル、メタノール、脱イオン水、氷酢酸、ジクロロメタン

#### 4.2 フローレート

速すぎると十分な結合反応が得られず、十分な回収が得られないおそれがあります。

### 5. 精製手順

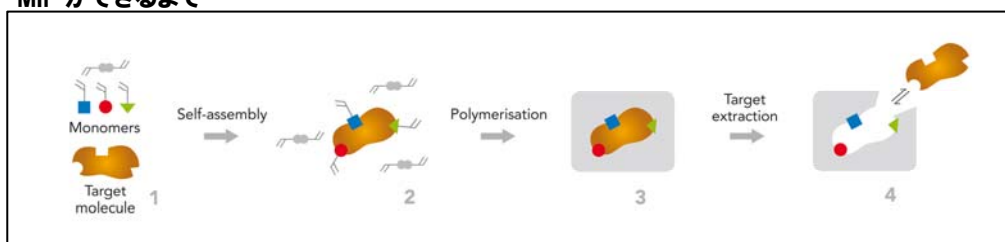
負荷する内容により2方法があります。阻害物の性質により、ボリュームや溶媒を修正する必要があるかもしれません。(特に洗浄過程)

#### 5.1 溶液の準備(・・・必要に応じて。5.2 を参照)

アセトニトリルー2%メタノール (v/v)、メタノールー2%酢酸 (v/v)

60/40 脱イオン水/アセトニトリル (v/v)、58/40/2 脱イオン水/アセトニトリル/酢酸 (v/v)

### MIP ができるまで



本品は試験研究用の試薬製品であり、臨床検査等診断に用いることはできません。必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用・保管・廃棄等の方法には充分ご注意ください。価格・仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

## 5.2 通液負荷

### ①アセトニトリル法

Step	AFFINIMIP Phenolics (100mg/3mL)
平衡化	アセトニトリル: 4mL (乾燥させないこと)
通液負荷	アセトニトリル溶媒試料: 1~5mL
洗浄	アセトニトリル: 1~5mL (溶出で過剰な阻害がある場合には「アセトニトリル-2%メタノールで洗浄」)
溶出	メタノール: 3mL (結合が強いために残さがある場合には「メタノール-2%酢酸: 2mL で溶出」)

### ②ジクロロメタン法

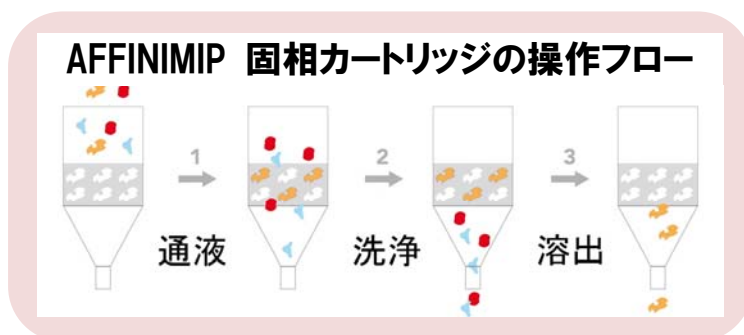
Step	AFFINIMIP Phenolics (100mg/3mL)
平衡化	ジクロロメタン: 4mL (乾燥させないこと)
通液負荷	ジクロロメタン溶媒試料: 1~5mL
洗浄	ジクロロメタン: 1~5mL
溶出	メタノール: 3mL (結合が強いために残さがある場合には「メタノール-2%酢酸: 2mL で溶出」)

### ③その他の方法

Step	AFFINIMIP Phenolics (100mg/3mL)
平衡化	アセトニトリル: 4mL、脱イオン水: 4mL (乾燥させないこと)
通液負荷	脱イオン水/アセトニトリル(アセトニトリル max.40%): 1~12mL
洗浄	脱イオン水/アセトニトリル(60/40): 1~10mL (溶出で過剰な阻害がある場合には、脱イオン水/アセトニトリル/酢酸(58/40/2): 1~4mL で洗浄)
溶出	メタノール: 3mL (結合が強いために残さがある場合には「メタノール-2%酢酸: 2mL で溶出」)

## 5.3 溶出液

溶出液は mini-vap エバポレーターにより室温下、窒素で乾燥した後、0.5mL の移動相で溶解してください。



本品は試験研究用の試薬製品であり、臨床検査等診断に用いることはできません。必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用・保管・廃棄等の方法には充分ご注意下さい。価格・仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。